

令和5年3月7日

保護者の皆様

高槻市立三箇牧認定こども園

## 令和4年度 三箇牧認定こども園教育自己診断について

保護者の皆様には、日頃より本園の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝しております。

さて、令和4年度保護者アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者の皆様のご協力のおかげで、教育アンケートの回収率は約90%でした。改めて保護者の皆様の就学前教育保育に対するご理解とご協力に感謝しております。アンケートの結果やご意見を参考にさせていただき、本園の教育活動がより一層充実するように努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いたします。

回収率	89.6%	・・・調査人数(48人)	回収人数(43人)
-----	-------	--------------	-----------

### 【お子様について】

「こども園に行くことが楽しい」は「思う」と「やや思う」を合わせると100%で、何より嬉しい結果となり、お子様が園生活を楽しんでいると感じてくださっていることがわかりました。また、ほとんどの項目で肯定的回答が90%以上と高かったのですが、「必要な時『ありがとう』『ごめんなさい』を言おうとするようになってきた」では7%の方が、「約束を守って遊ぼうとする」では9%の方が「余り思わない」と回答されていました。今後も、挨拶の大切さや、相手の気持ちになって考える機会や、集団生活の中でのルールや約束の大切さなど丁寧に伝えていきたいと思えます。また、大人が率先して日常的に『ありがとう』や『ごめんなさい』を言えているか改めて振り返り、意識して伝えていきたいですね。

### 【保護者としての意識について】

「子育ては楽しい」「子どもと触れ合う時間を大切にしている」の項目をはじめ、ほとんどの項目で肯定的回答が90%以上という結果となり大変嬉しく感じました。また、小さなお子様をかかえたこの時期の子育ての大変さやしんどさを感じながらも、一生懸命お子様と向き合っておられる保護者の皆様の思いを感じ、改めて子育て支援の必要性を痛感しました。

「PTA活動や保護者会に積極的に参加しようと思っている」においては23%の方が「余り思わない」「思わない」と回答されていました。本園では、1号認定と2号認定の比率が半々で、今後2号認定のお子様の割合が増えていくことが予想されます。今後も、仕事をされている方も、下にお子様がいいらっしゃる方も参加しやすい園行事やPTA活動を目指して、現状に応じた内容を検討、改善していきたいと思えます。

### 【園の教育活動、園の管理・運営について】

「教育方針や子どもの様子を分かりやすく伝えている」「遊びを中心に実体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」の項目をはじめ、12項目中10項目で肯定的回答が97%以上という結果になり、本園の教育内容が保護者の皆様にご理解ご支援されていることが分かり、改めて感謝申し上げます。「教育方針や子どもの様子を分かりやすく伝えている」「あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習

慣を身につくように指導を行っている」「飼育・栽培などを通し自然に親しめる環境を整えている」の項目で「余り思わない・思わない」の回答が5%以上あったことを深く受け止め、参観日の在り方や教育方針の伝え方について改めて課題に向き合い、改善していくように努めてまいります。また、基本的な生活習慣が身に付く指導や自然に親しめる環境整備などに努めていきたいと思っております。今後も、学びの基礎・生きる力を育む就学前教育保育の充実をめざしてさらに努めてまいります。

### 令和4年度 第三回幼稚園評議委員会 評議員の皆様からのご意見

保護者アンケートの結果報告及び、三箇牧認定こども園の今年度の重点的な取り組みを報告しご意見を頂きました。

- ・保護者アンケートで、子どもが「こども園に行くことを楽しんでいる」の項目で肯定的回答が100%であることは素晴らしい。こども園を見学した際にも、子どもたちはもちろん、先生たちも笑顔で溢れていて、園全体の楽しい雰囲気を感じた。子どもたちがこども園で楽しく過ごしていることが保護者にもしっかりと伝わっているのだと思う。
- ・認定こども園になって3年目となり、年々2号認定の子どもの割合が増えてきているとのことで、保護者のニーズに応えながら、限られた職員数で連携し、保育方法や環境構成など工夫されているのがわかった。先生方が自分の動きだけではなく、全体を見ながら協力し、「チーム力」を最大限に生かしながら保育されているのがわかった。
- ・参観日は、コロナ禍で制限がある中での工夫や、子ども一人一人に応じた配慮をしながら行われている。
- ・来年度はコロナの制限も緩和されるとのことなので、コロナ禍前のように、こども園と小学校、中学校の子どもたちの交流が密に行えるように、職員間の連携をしっかりとしていきたい。

#### 【次年度に向けて】

- 引き続き、子どもたちが「自ら気づき、考え、主体的に遊ぶ」ことを大切に、年齢や発達に合った環境や援助を考え、活動内容を工夫し日々の遊びの充実を図りたい。
- 今後も様々な感染症予防対策をはじめ、危機管理意識を高くもち、危機対応について教職員間で共通理解し、取り組んでいく。
- 2号認定の子どもの割合が増加傾向であることに加え、ステーション（バス）利用の需要も高まりつつある中、保護者に園の生活や子どもの様子を知ってもらう機会を作り、保護者同士が関わられるような工夫をしていきたい。
- PTAと連携し、充実したPTA活動、園行事の内容を工夫していきたい。

〈令和4年度 評議員の方々〉

高槻市立第七中学校長、高槻市立柱本小学校長、三箇牧公民館館長

